

# 地域の宝再発見

NO.70

## シリーズ『城廻り本丸』（8）松山御殿のこと～沢庵禅師の指南？

土岐頼行侯の松山御殿築造はあったのかなかったのか。松山御殿は確かに築造されました。が、発掘確認調査はなく詳細全貌は不確かなままです。

松山御殿が造られたのは万治元年（1658）です。前号の頼行侯と頼長の湯町湯屋で対面した折に父は松山館へ遊びにいらっしゃいと誘っていました。ところで上山城は『上山城地明細記』にあるように、東西約二百間、南北三百間の月岡天神森の丘に築造された平山城です。高楯城から天文四年（1535）現地に築城と伝えられ、江戸幕藩時代になっての初代藩主能見松平重忠侯元和八年（1622）10月19日入封、次の蒲生忠知侯、寛永五年（1628）3月28日入部の土岐氏ら代々領主が、城郭を改修・補修してきました。以降、丘を拡張するほどの城郭拡張はないようです。そのためなのでしょうが土岐頼行侯は万治元年（1658）に松山台に屋形（別館）を構築しました。

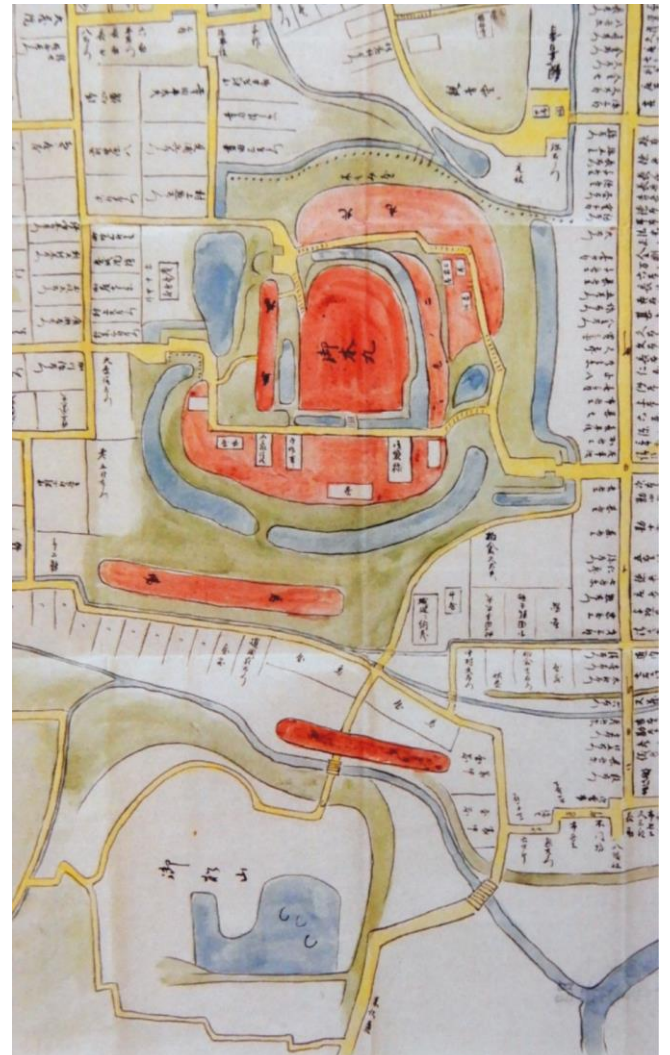
「万治元年（1658）松山屋形建て西光寺を今の寺地へ移される」（『上山三家見聞日記』）、「土岐山城守侯御代万治元年にこの寺地を召し上げられて別荘御建築に相成り西光寺を今の石崎の地に移されしなり」（『上山見聞随筆』）と記され、また西光寺由来の「福寿山西光寺の歴史」にも記されています。

松山台屋形造営の目的は不明です。しかし資料に「御茶屋敷」という文言が見られます。少し視点を変えます。沢庵禅師が上山に流罪となり寛永六年（1629）お盆頃に着きました。若い頼行侯は沢庵禅師に治世のあり方に多くの指南を受けました。沢庵禅師の但馬国出石に生まれました。ゆかりの地を訪ねると出石（兵庫県豊岡市）の宗鏡寺内を流れる沢そばに沢庵居住の庵があり、また後に住持した和泉国堺の南宗寺には著名な枯山水の庭があって、沢庵は水について悟るところがあったのだと思いました。その沢庵は上山の地勢を前提として若い藩主に治世を説いたことでしょう。

月岡から松山の間には荒町川があり城から橋

による忍び道、松山御殿造営の財源のこと、また虚空蔵山からの引水が堰によって松山台に引かれたことなど伝承の多々も市史は紙数を費やして検証しています。

ただ城郭整備の関わりで、上山城（200m）の北北東の湯ノ上観音寺や愛宕神社台地（190m）、北方の山王山（212m）からは城内が眺望されることを忌避し、観音堂寺、清光院を下の地に下げ、元清光院跡地に頼行嫡男頼長の氏神山王権現社として建立し城防衛の施策を図ったとされます。頼行侯、頼隆侯は別館でどんな暮らしをしたのでしょうか。



「土岐伊豫守御代上山図」（上山市蔵、「上山城絵図と瓦」より）

※参考文献 「上山市史」、「上山三家見聞日記」、「上山見聞随筆」などを参照しました。

○内の数字は筆者が計測した標高です。